



# COSSS report

Chuetsu Organization for Safe and Secure Society.

公益社団法人 中越防災安全推進機構 機関紙

VOL. 19

2017年夏

## 中越沖地震発生から 10 年を迎えた柏崎と「まちから」



—7月16日 中越沖地震10周年記念イベントより—  
まちからでは市民団体によるキャンドルナイトが実施されました。  
子どもたちが作成した小さな灯籠には未来に向けたメッセージが浮かびあがっていました。

### contents

#### P2-3 特集①

中越沖地震 10 年を迎えた柏崎とまちから  
10 周年記念トークセッションの様子

#### P4-5 特集②

イナカレッジの食卓  
中越地域に移り住んだ若者たちの暮らしをのぞく

P6-7 シリーズ 防災教育の現場から 第12回 見附市立田井小学校 「防災キャンプの効果を上げる3つの工夫」

P8 シリーズ4コマまんが、インフォメーション、施設のご案内、会員募集

# 中越沖地震発生から10年を迎えた柏崎と「まちから」



まちからで地域の被害状況を学びそなえを考える (北条小学校)

防災について学んだことを壁新聞にまとめる (青少年健全育成市民会議)

総合学習の一環として地域の人から当時の話を聞く (北条小学校)

自分たちのまちの被害を知る (第二中学校)

かしわざき市民活動センター  
中越沖地震メモリアル  
**まちから**  
が携わっている柏崎市内の  
次世代防災教育を通じたまちづくり

自分が生まれた年の災害を学ぶ (日吉小学校)

災害時のジレンマについて話し合った班の意見を発表 (北条小学校)

えんま市で防災仕事を教える (柏崎市消防団女性消防隊)

災害食の授業でアレルギー対応食を学ぶ (北条小学校)



かしわざき市民活動センターまちからでは、米山隆一県知事、桜井雅浩柏崎市長、小正裕佳子氏(「NEWS ZERO」キャスター)による「災害からの復旧、復興を乗り越え、未来へ教訓を生かす」をテーマとしたトークセッションを開催しました。会場には200名を超える市民のみなさんからお越しいただき盛会となりました。

## 中越沖地震から10年

平成一九年七月一六日発災の新潟県中越沖地震からの復興の過程において、柏崎市の市民力・地域力が培われてきました。

災害は多くのものを失うことは間違いありませんが、同時にこれからの地域づくりに向けた取り組みが始まるきっかけにもなります。多くの被害がありました。復興への道を手助けしながら進んできました。

震災から10年を機に、これまで培ってきた経験を、これからいつ起こるか分からない災害への備えを日常的に意識することの大切さをあらためて確認し合えるようにこのトークセッションを企画しました。

### 満員の会場では

登壇いただいたお三方から、ご自身の経験や、中越沖地震当時には何をしていたか話っていたことからスタートしました。

櫻井市長からは、日頃の付き合いこそが防災力、地域力の向上につながるが、ちょうど開催中の八坂神社のぎおん柏崎祭を例としてお話されました。どれだけ地域の人の名前を呼ぶことができるかが、地域の結束力につながるという話では会場にも多く共感され、

れました。日頃からのお祭りに参加することも防災の一步であると我々も伝えていきます。

小正さんからは、阪神・淡路大震災の経験から最近の被災地で見えて感じたことをお話しいただきました。直近の災害として九州の被害状況を例に、想定外の被害がおきてしまう現実をご紹介いただき、他地域の支援に多く関わられている経験から、新潟県の優れた取り組みが紹介され、合わせて中越防災安全推進機構の事も紹介いただきました。

知事からは、最近の災害対応の話を通じて、行政の長として判断しなければいけないこと、教訓や経験をきちんとマニュアル化して後世へと共有していくことの大切さを述べられました。

さらに市長からは、災害に強いまちにするためには、中越沖地震を知らない世代にも、当時の経験を伝えていきたいとも発言されました。

「想定外の被害が起きうること」や「日頃からの近所の付き合い」といったまちからが伝えてきたことの大切さを会場のみなさんと改めて共有することができた場となりました。

### まちからの役割

まちからが果たす役割は、教訓や経験を次世代に伝えていくことでもあります。現在、

防災教育に力を入れて、各学校への支援で何ができるかを現場の先生方と意見交換をしながら、防災教育プログラムの開発、提供を進めています。

まちからでは、北条小学校の総合的な学習の時間のサポートを行ってきました。この小学校では地域の「北条ネットワーク」について年間を通じ学習計画を立てています。

一〇年前に経験したことを、まちからで学び、地域の人からも直接お話を聞き、学校での備えを学び、親子学習で当時の事を保護者から聞いて学習を深めています。

実際に、大雨の影響で避難所が開設されたときには、友達のとがとも心配だったとか、近所の人と避難をするときは、声を掛ける約束をした。など、地域や友達を思いやる気持ちが芽生えたそうです。まちからは、「命と地域を思う気持ちを育む」ことを目標に防災教育に取り組んでいます。

柏崎で特に賑わいを見せた「えんま市」では、柏崎消防団女性消防隊と協力し防災工作を広めました。女性消防隊とともに防災への取り組みを行っています。

柏崎市青少年健全育成市民会議は、青少年のリーダーを養成する必要があり、行動を開始しています。今年にはまちからを利用していただきながら、まちあるきを通じた防災マップ作りや防災講座を実施してきました。今後は講座を受講した生徒さんたちがリーダーとなって、地域のお泊り会や、トライウォークといったイベントで防災への取り組みを伝え、

えています。防災を文化として根付いてもらうために、地域とともに育んでいきたいと考えています。

防災によるまちづくりは、他者に対しての思いやりや、災害時に自分ができることはなにかを考えることも大切です。将来に向けたやさしい地域づくりこそまちからが担う役割だと考えます。

### まちからのこれから

まちからも、ようやく地域防災力のハブとして機能できるようになってきています。中越沖地震から10年を迎えた柏崎から、これからのまちづくりへと取り組んでいきます。

まちからが開館以来取り組んできていたチャレンジデーでは、楽しみながら学べるイベントを企画し、近隣の子どもたちが多く訪れるようになっていきます。その成果か、訪れる先の学校での認知度も高くなっています。まずは楽しむところからスタートして、防災を学べるようにさまざまなプログラムを提供しつつ、まちからにきたついでに、日頃の備えも学べるように、そしていざれ地域で防災への取り組みが当たり前となるように取り組みを続けていきたいと考えています。

(かしわざき市民活動センター・中越沖メモリアルまちから 筑波 匡介)

澤池さんの7月9日の食卓

採れたて野菜たっぷりサラダそうめん

いつもお世話になっているお宅にちょっと挨拶にと思ったらご飯をご馳走になりました。ということで、¥0です。

ご近所のばあちゃんから頂いたレタスときゅうりとミニトマト。知り合いからのサラダオニオン。一応調理はお手伝いということでわたしが。

きゅうりのぬか漬け お世話になっているけいこさんがつけたもの。  
キムチ いただきものです。



H29～インターン中



澤池 身和 十日町市松代地域

東京 23 区出身。将来東京を離れて緑豊かな暮らしがしたい。もっと地方が元気になって、日本の文化を継承し、世界に発信できたら素敵だと思い、地方創生、地域活性化の仕事 に関わりたいと考える。「まずは田舎に住んでみて、自分が何ができるのか、田舎に何が必要なのか知ろう」という観点から、長期インターンに参加。7/7に夏季限定の週末ビアハウスをオープン。現在は各イベントのお手伝いや、休みの日は農業のお手伝いなど、かなりたくさんの方々にお世話になりながら過ごしている。



橋本さんの5月10日の食卓

交流会のごはん

20年以上荻ノ島にボランティアに来てくださってる方々との交流会のごはん。荻ノ島のお母さん方がつくってくれました。



橋本 和明  
柏崎市高柳町荻ノ島集落

H29～インターン中

大阪府出身。昨年の夏に短期インターンに参加し、荻ノ島の人が好きになって移住しようとして今年も長期のインターンに参加。今は荻ノ島でこれからの地域の在り方を考えながら「ツギツナグ」というブログの運営、想いを集める喫茶、野菜のコンビニを作っている。

水野さんの7月20日の食卓



焼きナス・ズッキーニ・胡瓜の酒粕漬け

ナス・ズッキーニは摘果したもの、胡瓜は頂いたもの。

ライスサラダ

胡瓜、赤玉葱、炒り米、レンズ豆、枝豆、ズッキーニ、ミックスハーブ。

ワラビのお浸し 裏の土手で採ったワラビ。

ザワークラウト わけて頂いたキャベツ。

スープ 卵

いろいろとお野菜分けて頂いたり、自分の裏庭でも出来たものを使ってみたりしました。



水野 奈々子  
十日町市川西地域「千年の市 じろばた」

H29～インターン中

東京都出身。姉からイナカレッジのこととインターンについて聞き、米や野菜作りと繋がりのある暮らしと地域に興味を持って、十日町にある農産物直売所「じろばた」での長期インターンに参加。地域の方の土地への強い思い（愛とか誇りとか）を感じながら過ごしている。

1ターンの留学  
にいがたイナカレッジの食卓

～中越地域に移り住んだ若者たちの暮らしをのぞく～

ムラビト・デザインセンターが運営する「1ターンの留学にいがたイナカレッジ」。この制度を利用して、毎年何人もの20～30代の若い人たちが中越地域の様々な集落に移り住んでいます。

イナカレッジの事務局の仕事をしていると、いろいろな地域でそれぞれ楽しく過ごしている皆さんの「暮らし」があちこちで垣間見えます。その度に、改めてその人が周りのいろいろな人との良い「関係性」の中で暮らしているんだなあ、と実感します。

そんな、田舎暮らしといえどそれぞれ少しずつ違う「暮らし」と、中越地域のあたたかい「関係性」をちょっとでも皆さんにお伝えできればと、インターン生、元インターン生たちの「食卓」を見せてもらうことにしました。

日々を作っている「食卓」とそのおかずのエピソードから、ぜひ多様なインターン生たちの「暮らし」を感じてみてください。

ムラビト・デザインセンター 井上有紀

堤さんの7月19日の食卓

きゅうりの漬けもの

きゅうりはもらったもの。  
シソは家の裏に出てきたもの。

にんじんの塩キンピラ

ピーマンとインゲンの梅肉和え  
自分の畑で収穫。  
梅干しは去年漬けたもの。

ナスとかぼちゃの揚げびたし風

もらったナスと初物かぼちゃ。  
半干しにして焼きました。



マグロの煮付け

柏崎の鮮魚センターで  
買ったマグロのアラ。

高柳産コシヒカリ

自分の米が残り少なくなっ  
たので勉強も兼ねて  
買いました。おいしい。

味噌汁

大根はもらいもの。味噌は去年家  
で適当にちょっとだけ作ったもの。

H27～H28 →定住



堤 さゆり  
柏崎市高柳町荻ノ島集落

東京都出身、埼玉県で育つ。農村で暮らしたくて2015年秋よりインターンに参加。インターン終了後の現在も集落に住み、アルバイトをしながら農作業を教わっている。

田ノ岡さんの7月20日の食卓



自畑野菜の素揚げ  
+夏バテ予防たれ

ナスとシシトウは自分の畑で、ズッキーニと豆はお隣さん家の畑でその日に採れたもの。うっかり見逃して大きくなりすぎたナスが面白くてお隣さんにお裾分けに行ったら、ついでに一緒に素揚げにしてくれて、ついでのついでに「酢醤油と生姜だから夕方になってもばか暑い日にぴったりだよ～」とタレの作り方も教えてくれた。

稲庭うどん風の  
こんにやく麺  
with 自畑ネギ  
地域のお茶の場でおばあちゃんたちが「意外と美味しいが、タレ付きで簡単だよ～」と教えてくれたもの。

H28～H29 →定住



田ノ岡 志保  
十日町市川西地域「千年の市 じろばた」

岩手県出身。大学で建築・空間デザインを学ぶ中でまちづくりに興味を持つ。一方で祖父の他界をきっかけに祖父の行っていた手仕事や暮らしにも興味を持ちはじめ、両者の混在する十日町でのインターンに参加。インターン終了後の現在は川西から松之山に居住地を変え、引き続き地域のお母さんたちと活動している。

矢代さんの7月10日の食卓

「門出総合農場」のお米

去年インターンでお世話になりました。旨みがぎゅーりのお米です。

「とくぜん」のオードブル

高柳のお惣菜屋さんのもの。(前日の黒姫山登山道整備の慰労会の余り)。地域のお母さんたちが手作りしている惣菜は優しい味わいで最高です。



矢代 耕太  
柏崎市高柳町門出集落

東京都町田市出身。前職は食品スーパーの青果担当。イナカレッジに参加したきっかけは、農業がやりたかったから。インターン期間中は、春から秋は田んぼや畑で泥だらけに、冬は和紙工房でコウゾまみれになっていた。

H28～H29 →定住



「門出和紙」からももらったお酒

去年インターンでお世話になりました。ラベルは門出和紙の職人の手すきです。

サラダ

もらいものレタスとトマトと自分の庭で採れたきゅうりのサラダ。きゅうりが恐ろしいほどたくさん採れます…。

味噌きゅうり

味噌は市販のものです自分の庭で採れたばかりのきゅうりは瑞々しくとてもおいしいです。

### 見附市立田井小学校5・6年生「防災キャンプ」実施概要

時期：(事前学習) 平成29年6月上旬～下旬 / (防災キャンプ) 平成29年6月24日(土)  
 対象：見附市立田井小学校5・6年生(7名)

#### 日帰りの「防災キャンプ」を中心とした学習の流れ

- 6月8日 中越地震を体験した方から体験談を聞き避難生活の様子を知る
- 6月上旬 避難生活で活用できそうな学校の設備・備品を調べる
- 6月上旬 避難所のレイアウトを個人で考える
- 6月中旬 考えた避難所のレイアウトを保護者に見せてコメントを貰ってくる
- 6月中旬 保護者のコメントをふまえて全員の考えを1つのレイアウトにまとめる
- 6月24日 学習参観日



- ・救急救命法 ・見附市職員による見附市で起こる災害についての講話
- ・全校へ避難所レイアウトの発表 ・親子で避難所設置に当たってレイアウトや手順の作戦会議
- ・避難所設置訓練 ・災害食づくり

ぼくたちの考えたレイアウトは…



本部はどうしてその場所にしたの？



物資の管理をしやすかったから

親も子も真剣！

「安否確認」は子どもにどう言ったら伝わるかな…

作戦会議の結果を赤字で修正



意見が分かれた部分はやりながら考えよう！



通路はこんなに広くなくても大丈夫じゃない？

次はどうする？



ふだん開けない倉庫を確認

みんなで動かしてみよう！



その場でさらに改善を図る

こっちの方がよさそう！



三秒後…

いろいろあって…



達成感いっぱいの顔が並ぶ



避難時の食生活の様子を聞く

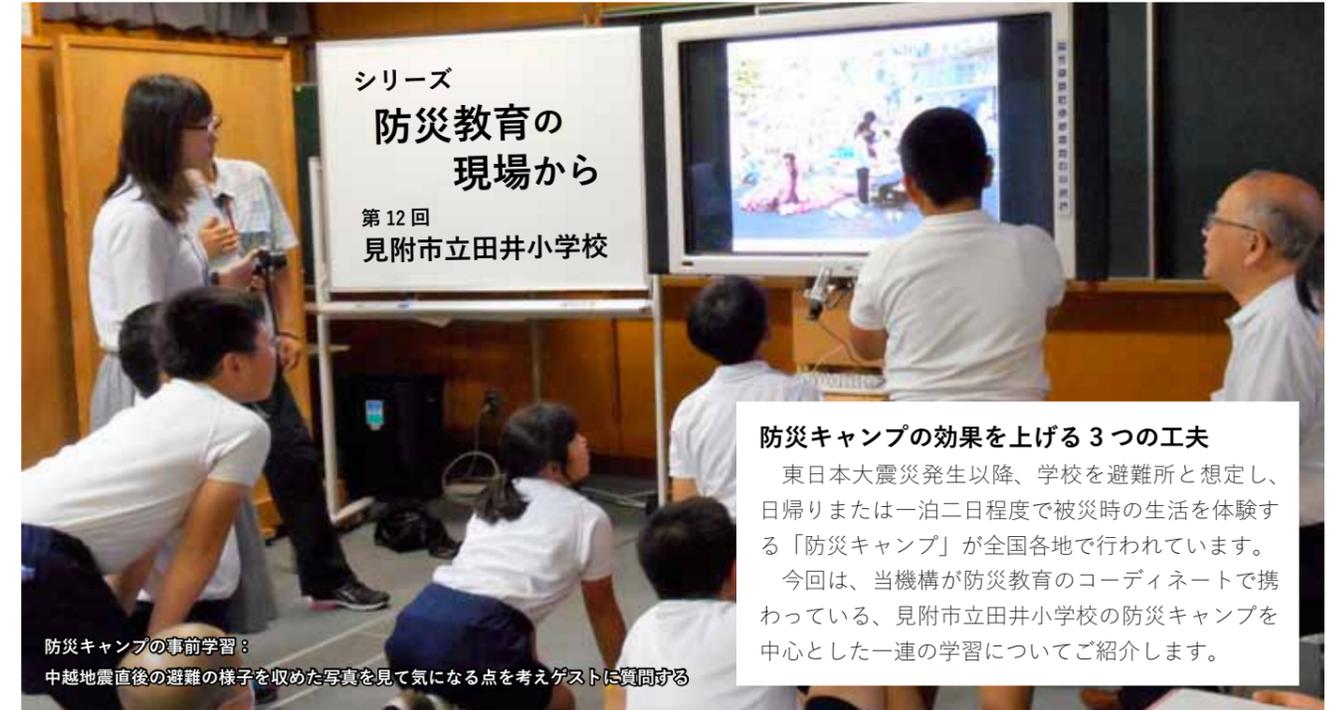


災害食づくりを体験

中越市民防災安全士会の  
**石黒 みち子さん** **羽入 美子さん**  
 にもお世話になりました！

**担当した先生より学習を通しての感想**  
 当校では、平成二七年度から本格的に防災教育を始めました。手探りで進める中、中越防災安全推進機構さんの存在を知り、講師紹介をお願いしました。すると、カリキュラムの作成や授業の展開の相談など多岐にわたって支援して下さいました。  
 今年度の防災教育で初めて避難所を親子で設置する活動を取り入れました。「避難所の設置や運営に積極的に関わろうとし、災害時でも、お年寄りや赤ちゃん等に寄り添う気持ちを持つこと」がねらいでした。目標は概ね達成され、しかも、プレゼンの力や話し合う力もついたように思います。中越大震災の体験談は、子どもの心を動かすことも実感しました。

**教頭**  
**近藤 由紀子先生**



### シリーズ 防災教育の現場から 第12回 見附市立田井小学校

#### 防災キャンプの効果を上げる3つの工夫

東日本大震災発生以降、学校を避難所と想定し、日帰りまたは一泊二日程度で被災時の生活を体験する「防災キャンプ」が全国各地で行われています。今回は、当機構が防災教育のコーディネイトで携わっている、見附市立田井小学校の防災キャンプを中心とした一連の学習についてご紹介します。

防災キャンプの事前学習：  
 中越地震直後の避難の様子を収めた写真を見て気になる点を考えゲストに質問する



「防災キャンプ」のねらいは、災害時に役立つ知識・技能を身に着けるため、家庭・地域との連携を図るためなど実施主体によってさまざまである。田井小学校では、学校が避難所になった場合に必要となる備えを、児童・教員・保護者が一緒に考える機会として、避難所設置訓練を企画した。

この取組みのポイントとその効果は以下の三点である。

- ① 体験のみにならないよう児童の思考に合わせ事前学習を組立てたこと
- ② ゲストの状況や避難生活のイメージを膨らませ、設置訓練をする動機が明確になった。
- ③ ゲストと児童の間に教員が入り三者の対話形式で体験談を聞いたこと
- ④ ゲストの語りが最大限活かされ、児童の興味により引き出された。
- ⑤ 保護者も巻き込んで答えのない課題に取り組んだこと
- ⑥ 立場や考え方の違う人と協調することの大切さ、難しさに気付くきっかけになった。

① について(事前学習の流れは左ページ参照)、災害時のイメージがないまま避難所設置訓練に臨むのではなく、体験者から話を聞き、自分の学校、家庭に照らし合わせて考える手順を踏んだ。これにより、設置訓練を行う意味が腑に落ちた状態で活動に入ることができた。

② の体験談をゲストから聞く場面において

は、ゲストが用意した写真について、教員と児童とゲストの三者で対話をしながら理解を深めていった。事前に児童へ写真を見せて、質問したいことを考えさせ、教員とゲストで写真から伝えたいことを共有した。それぞれの児童の特性を理解した教員がゲストと児童の間に入ることで、興味により引き出され、その結果、当初想定していなかった細かな部分までエピソードを共有することができた。この活動を通じて、避難生活において配慮が必要な他者への視点も育むことができた。

③ について、避難所設置訓練前のレイアウト作戦会議において、本部や安否確認の掲示板の配置で児童と保護者の意見が分かれる場面があった。意見の食い違いはそれぞれが持つ機能の捉え方の違いからくるもので、作戦会議の場では決着がつかず、現場でやりながら考えてみようということになった。いざやってみると、作戦会議で意見が分かれた部分以外にも、その場にいる人で話合いながらレイアウトを改善していく姿が見られた。

災害時は絶対的な正解のない大人でも判断に迷う場面の繰り返しである。防災教育は単に自然災害から命を守るための対処行動を教えるだけではなく、周囲の人と協調しながら正解のない課題に立ち向かう姿勢を育むことも、まさにこれからの社会を生きる力の育成にも繋がっている。引き続き、そういった防災教育の可能性について各校の支援を通して考えていきたい。

(地域防災力センター 松井 千明)

## 【出張イナカレッジ、始めました！縁ある地域のものを届けます。】

今年、ムラビト・デザインセンターの井上が少し「実験的に」始めている企画「出張イナカレッジ」。地域と若者の出会いが生み出す素敵な何かを、商品と人間（私）ごと東京までもって行ってしまおう！と、6月、7月に1回ずつ東京都墨田区の青空市で出店してきました！

イナカレッジの短期インターンやイベントに参加したことのある東京の大学生も売り子として何人か手伝ってくれ、新潟の地域の美味しいものたちは、東京のお客さんのもとへ旅立ってゆきました。これからもいろいろな人とのふらっと偶然の出会いを楽しみながら、東京などと新潟をいろんなものを行き来させてみたいなあ、と思っています。どうぞ期待！



## 【短期インターンがスタート！大学生が地域で様々な挑戦をします】

8月～9月中旬にかけて、新潟県内の5地域で、大学生が夏休みを使って様々なプロジェクトを実施します。1か月住み込みで地域の暮らしを体感しながら、ドキュメンタリーの作成、フリーペーパーづくり、インタビュープロジェクトなど、地域にとっても学生にとっても「挑戦」する夏休みとなります。



9月頭～中旬にかけて、各地域で成果報告も行いますので、ご興味のある方はご連絡ください。

## 【やまこし復興交流館おらたるがリニューアル工事のため休館します】

やまこし復興交流館おらたるが平成29年11月4日（土）～平成30年3月末日まで休館します。エレベーターやスロープ、カフェが設置され、展示もリニューアルされる予定です。



→ <https://inacollege.jp/>

**まんがの作者**  
  
 ムラビト・デザインセンター  
 新人  
 井上 有紀

## 中越メモリアル回廊

**祈りの公園 妙見メモリアルパーク**  
 92時間救出の現場を、被災者遺族の祈りの場所に。

**長岡震災アーカイブセンター きおくみらい**  
 中越メモリアル回廊の玄関口。震災地の上を歩き、そこで起きたことを知ったら、回廊を巡る。

**ふるさとがもつ、チカラとは やまこし復興交流館おらたる**  
 ここには、守るべき里山や伝統文化がありました。山の暮らしによる新しい交流の地まりへ。

**体験がもたらすものは おぢや震災ミュージアムそなえ館**  
 地震を疑似体験し、発生から復興までの月日をたどることで防災知識を再認識。

**記憶の公園 木幡メモリアルパーク**  
 河川閉塞により水没した家屋群。忘れてはならない痛みを伝承。

**はじまりの公園 震央メモリアルパーク**  
 震災を一層する遊歩道。震源地の保存・伝承と感謝の気持ちを発信。

**支えてくれたのはたくさんの「絆」 川口きずな館**  
 被災を通して育まれた「絆」にふれることで、新たな交流の未来を築きます。

## 中越沖メモリアル

**かしわざき市民活動センター 中越沖地震メモリアル まちから**



旧公会堂の喬柏園（きょうはくえん）に市民活動センターと併せて整備され、地震の経験・教訓とともに、賑わいの再生に取り組む復興の町づくりを伝えます。

〒945-0066  
 新潟県柏崎市西本町3-2-8  
 開館時間 9:30～21:00  
 メモリアル展示は17時まで  
 休館日 毎週火曜日 年末年始  
 TEL 0257-22-2003  
 FAX 0257-22-2007

## 会員募集中！

当機構では、地域防災への取り組みや被災地への支援活動に賛同し、応援して下さる会員の方を募集しています。皆様のご入会をお待ちしています。  
 参加資格：当機構の活動に関心のある18歳以上の方なら、どなたでも参加できます。  
 会員特典：当機構が主催する研修・講座・イベント等のご案内をいたします。  
 年会費：正会員 5,000円 個人賛助会員 3,000円 団体賛助会員 100,000円（1口以上）  
 ※申込書は当機構ホームページよりダウンロードできます。

公益社団法人 中越防災安全推進機構 機関紙 <COSSS report> 第19号 2017年8月発行

発行人：玉木賢治 編集：赤塚雅之 井上有紀 関将慶 筑波匡介 中村充 松井千明 デザイン：松井千明  
 〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2F 長岡震災アーカイブセンター-きおくみらい内  
 TEL: 0258-39-5525 FAX: 0258-39-5526  
 E-mail: info@c-bosai-anzen-kikou.jp HP: <https://www.coss.jp/>

## 施設のご案内

長岡震災アーカイブセンター  
 きおくみらい

〒940-0062  
 新潟県長岡市大手通2-6 2階  
 開館時間 平日 10:00～18:00  
 土日祝 10:00～17:00  
 休館日 毎週火曜日 年末年始  
 TEL 0258-39-5525/FAX 39-5526

おぢや震災ミュージアム  
 そなえ館

〒947-0026  
 新潟県小千谷市上ノ山4-4-2 2階  
 開館時間 9:00～17:00  
 休館日 毎週水曜日 年末年始  
 TEL 0258-89-7480/FAX 89-7485

川口きずな館

〒949-7503  
 新潟県長岡市川口中山1441  
 開館時間 10:00～17:00  
 休館日 毎週火曜日 年末年始  
 TEL 0258-89-3620/FAX 89-3621

やまこし復興交流館  
 おらたる

〒940-0204  
 新潟県長岡市山古志竹沢甲2835  
 開館時間 9:00～17:00  
 休館日 毎週火曜日 年末年始  
 TEL 0258-41-1203/FAX 41-1204